

リレーインタビュー

大口町で活躍する社長さんをリレー形式でご紹介いただき、住民有志のおおぐち宣伝部が、大口町にある企業の素晴らしさと、社長さんの人柄をご紹介します企画です。



パティスリー ドンバル（ドンバル洋菓子店）
代表 沢田 正さん

店名の「ドンバル」は、和洋菓子店だった父の職場のフランス人講師の名前からいただきました。

Profile

昭和38年生まれ

趣味：自転車・スキー スキーは友人と週に1回ペースで行きます。自転車は平日は早朝から、土日には多治見まで行くこともあります。競技としては行っていないですが、どちらも練習という心持ちで今も続けています。

設立 1993年（平成5年）

所在地 大口町余野三丁目 527 番地

TEL (0587) 96-0404 従業員数 7名

お仕事の内容を教えてください

「こんなお菓子がおいしいですよ」と提案できるよう、自由な発想を大切にして、伝統的な洋菓子をアレンジしたメニューを考案して提供しています。



店長の歴史

実家は名古屋市の東区で、父が和洋菓子店をやっていたことから、ものを作り出すことにあこがれもあり、菓子職人になりました。父を師匠として6年程働いた後、稲沢、東海市の洋菓子店で修業し、大口町で独立してお店を持つことになりました。

「なぜ大口町に？」

もともと郊外で暮らしたいという思いがあり、場所を探していたところ、新聞の広告で見つけて、母方のお墓があるという縁があったこともあり、この場所に決めました。後にお墓がある徳林寺がすぐ近くであることを知り、驚きました。

大切にしていること

「こだわりや執着心を持たない」ことです。

思い込みがあると間違いが見えてきません。他人のアドバイスや、違う業界の話から自分のためになることを取り入れられるように、謙虚な気持ちを忘れない事が大切だと思っています。自分の仕事を客観的に見ることができるよう心がけています。

お店の自慢話

「おすすめは？」と聞かれたら、ショートケーキです。ショートケーキはごまかしがきかないため、クリーム的配合や泡立て方など、口溶けに気を配っています。大口町の桜酵母を使った酒粕のブッセなど、大口町のお菓子を作ったことによってお役に立てたことも良かったと思っています。

お店のスター

奥さんです。（優子さん）お店を立ち上げる時からともに歩んでくれています。



店長の一言

趣味のスキーも自転車も、仕事の洋菓子作りも、「ここで完成」ということはないと思っています。どちらもずっと自分の中の目標を更新していくものと考えています。